

組

あらすじ

百万 (ひやくまん)

大和国(奈良県)吉野の男が、西大寺のあたりで、一人の幼い子供を拾いますが、その子を持って、京都嵯峨の釈迦堂の大念仏にやって来ます。そして門前の男に、何か面白い見ものはないかと尋ねると、百万という女物狂が面白く音頭をとるといので、男は、それとなく百万に事情を聞いたします。百万は「夫に死に別れ、子供に生き別れたため、この様に思いが乱れたのだ」と語ります。

男が、信心によって子供が見つかるだろうというのと、百万はその懇め言葉に力づけられて、奉納の舞をまいはじめます。百万は、我が子に逢おうと奈良から、はるばる旅して、この春の嵯峨へやって来たことを述べ、このように大念仏に集まっている大勢の人の中に、我が子はいないのだからと、身の上を嘆き、狂乱の状態に手をおかせます。男はいよいよ間違ひなく子供の母親であると思い、子供を引き合わせます。百万は、もっと早く名乗ってほしかったと恨みはしますが、仏の徳をたたえ再会を喜びます。

佛師 (ぶつし)

田舎の男が持仏堂に納める仏像を作ってくれる仏師を探しに都へ来ました。目を付けたすっぱ(騙り者)は仏師と名乗り注文通り仏像を造る約束をします。翌日男が出かけていくと確かに仏像は出来ていましたが、実はすっぱ自身が仏像になりすましていたので、男が仏像の形に注文をつける度にすっぱは大忙しとなって…

船弁慶 (ふなべんけい)

源義経は、平家追討に武功を立てますが、戦が終わると、かえって兄頼朝から疑いをかけられ、追われる身となります。義経は、弁慶や従者と共に都を出、摂津国(兵庫県)大物浦から西国へ落ちようとしします。静御前も、義経を慕ってついて来ますが、弁慶は時節柄同行は似合わしくないから、都へ戻すように義経に進言し、了承を得ます。弁慶は静を訪ね、義経の意向を伝言しますが、静は弁慶の計らいであろうと思ひ、義経に逢って直接返事をするといいます。義経の宿へ来た静は、直接帰京を言いわたされ、従わざるをえず、泣き伏します。名残の酒宴がひらかれ、静は、義経の不運を嘆きつつ、別れの舞をまいます。やがて出発の時となり涙ながらに一行を見送ります。

〈中入〉弁慶は、出発をためらう義経を励まして、船頭に出船を命じます。船が海上に出ると、にわか風が変わり、激しい波が押し寄せて来ます。船頭は必死に船をあやつりますが、吹き荒れた海上に、西国で滅亡した平家一門の亡霊が現れます。

中でも平知盛の怨霊は、自分が沈んだように、義経を海に沈めようと長刀を持って襲いかかって来ます。義経は少しも動ぜず戦いますが、弁慶は押し隔てて、数珠を揉んで祈ります。祈られた亡霊は、しだいに遠ざかり、ついに見えなくなります。

【能楽のあらすじは権堂芳一著「能楽手帳」より出典】



仕舞

田村林本大 地謡 池内光之助
枕之段 立花香寿子 井戸良祐
今村哲朗
永田克壬

能 百万

シテ 梅若 猶花 義花 後見 池内光之助
子方 浅見 悠花 梅若 堯之
ワキ 江崎正左衛門 大西礼久
間 善竹 隆司 小西弘通
笛 野口 亮 井戸和男
小鼓 高橋奈王 立花香寿子
大鼓 上野義雄 林本大
太鼓 上田慎也 梅若雄一郎

火入れ式

狂言 仏師

すっぱ 善竹隆司 後見 上西良介
田舎人 上吉川 徹

仕舞

難波 小西弘通 地謡 梅若堯之
芭蕉 池内光之助 久保信一朗
善知鳥 大西礼久 今村哲朗
梅若雄一郎

能 船弁慶 前後之替

シテ 井戸良祐 後見 林本大
子方 井戸堯太 今村哲朗
ワキ 江崎欽次朗 地謡 井戸和男
ワケツレ 大坪賢明 梅若基徳
間 善竹隆平 久保信一朗
笛 斎藤敦 立花香寿子
小鼓 上田敦史 永田克壬
大鼓 森山泰幸 小川晴子
太鼓 上田慎也

司会 大木幸子

5/14(月) 事前講座「能への誘い～薪能によせて」
13:00～15:00 <講師:井戸良祐>
 受講料 アゼリアカルチャーカレッジ会員1,620円 / 一般1,836円(税込)
 当日使用する能面、装束、小道具などを出演者が詳しく解説。
 装束付けの体験もあり、説明を聞いてから鑑賞すると物語をよりいっそう深く理解していただけます。
 会場・申込:アゼリアカルチャーカレッジ Tel:072-761-0660
 〒563-0031 池田市天神1-9-3 池田市立カルチャープラザ内